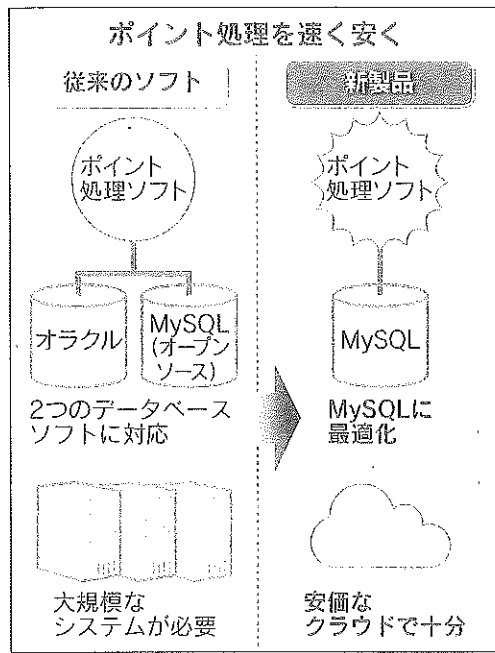


ポイント処理20倍速く

クレアンスメアード



ポイント管理システム開発のクレアンスメアード(東京都青梅市、菊池一夫社長)は12日、企業が発行するポイントの計算を従来より20倍近く速められるサービスを始め。交流サイト(SNS)など発行するポイントが増え、アクセスが集中しがちなため速度向上が求められている。消費者はポイント保有数の確認などが円滑にできる。3年間でアパレルなど100社への導入を目指す。

ポイント処理システムで発生するポイントの計の言き込み、閲覧ができるは商品やサービスの売買、顧客データベースへ。アパレル企業が店舗

クラウドで管理

アパレルなどに導入へ

に加えサイトやメール、SNSのチャネルを通じてポイントを付与するなど発行ルートが多様になり、システムへのアクセスが短時間に集中しやす

くなっている。これまででは毎秒2000件を処理できれば十分だったが、最近ではテレビ番組と連動したポイントサービスなどで、30000~40000件の処理が求められる場合もある。

クレアンスメアードはポイント処理ソフトを改良。米Oracleとオープンソース「MySQL」の両方のデータベース製品で顧客のポイントを管理できるようにしていたが、MySQLのみにデータベースを絞り込むことで動作を速めた。

同時にクレアンスメアードはコンピューターの基盤として米アマゾン・ドット・コムが提供するクラウドを使うことにした。これでクレアンスメアードの投資費用が抑えられる。

サービス料は最小構成の場合、月額9万円(税別)から、企業の採用コ

ストは従来の同社サービスと比べ約3分の1になるとい

ポイントの発行額は2014年度から2千億円近く増えて20年度に1兆円を超すとの試算があ

る。企業が単体で発行するだけでなく、様々な企業で使える共通ポイントの導入が進んでいる。カールチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)グループのTポイント、三菱商事系のロイヤリティマーケティング(東京・渋谷)のポンタ、楽天の楽天スーパーポイント、NTTドコモのdポイントが企業の囲い込みを競っている。(木村雅秀)